



村小だより

令和元年10月11日発行

平成31年度全国学力・学習状況調査結果について

校長 鈴木 正美

4月に実施された、小学校6年生を対象とした、平成31年度全国学力・学習状況調査結果とその考察についてお知らせします。平成26年度から、「学力や学習状況の結果を分析し、その後の教育に生かす」ことをねらいに結果を公表しています。

なお、今年度よりA問題(主として知識に関する問題)、B問題(主として知識を活用して考える問題)の区別がなくなり、国語・算数ともに、知識・思考力を一体的に問う問題となりました。

【平均正答率の比較】

	国語	算数
全国に比べ	上回っている	下回っている

【学力の結果と分析】

国語の各領域では、「読むこと」が全国を若干下回ったものの、その他の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「言語事項」では上回りました。また、記述式の問題の正答率が、全国より大きく上回っていました。

算数の各領域では、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」のすべての領域で全国を下回りました。特に、「数量や図形についての知識・理解」を問われる問題の正答率が、全国と比べて大きく下回っていました。

【学習状況の結果と分析】

同時に実施した学習状況調査(児童アンケート)の結果で、全国平均を大きく上回った項目は、「今住んでいる地域の行事に参加している」や「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う」、「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う」などがありました。

逆に下回った項目は、「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている」や「授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思う」でした。また、「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」の質問に、2時間以上と答えた児童の割合が全国よりも大きく下回っていました。

【今後の対策】

- ・児童が安心して学べる(学校生活を過ごせる)学級づくりを大切にし、学ぶ楽しさを実感できる授業を目指します。
- ・授業において、児童の問題意識を大切にしながら、対話的な活動と学びの振り返りを充実させることで、児童の考える力や表現力の向上を目指します。
- ・家庭との連携・協力の下、家庭学習強調週間を実施し、家庭学習の習慣化と学習内容の充実、メディアコントロールに取り組みます。
- ・学習タイムなどを活用し、国語や算数の補充学習や復習に取り組みます。補充学習の時間を計画的に位置付け、級外職員も加わり学級担任と連携し、児童の学力実態に応じた少人数指導での指導に取り組みます。

今後とも、変わらぬご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。